



植物の香り

自然解説員
加藤 裕一

早春のウメやジンチョウゲ、秋のキンモクセイなど、花が強く香る植物があります。また、梅雨時のドクダミも、強烈な香りをもっています。花屋さんや八百屋さんに行けば、香りのする植物は次々と見つかり、私たちは植物の香りで季節を感じたり、独特な風味を楽しんだりしています。今回は、春の香りを探しに公園内を散策してみましょう。

<花が香る植物>



ニワトコ

3月末から4月頃、林のへりでニワトコの花が早々と見頃を迎えます。クリーム色の花がたくさん集まって咲きますが、一つ一つの花は小さいので遠目にはあまり目立ちません。でも香りがとても面白いので近付いてくんくと嗅いでみましょう。2・3月号でも紹介しましたが、ニワトコの花はとある夏野菜の香りがします。満開の頃は特に香りが強いです。また、花びらは反り返り、5本の雄しべが目立つことにも気付くと思います。そして一番の驚きは、雌しべが赤紫色をしていることで

す。香りを嗅ごうと植物に近付くと、こんなことにも気付くきっかけになると思います。

5月に入る頃、ミズキの花があちこちで見頃になります。公園内のあちこちに点在していますが、里の茶屋周辺や野草園などでは花を近くで観察できます。日当たりの良い場所では枝を横へ横へと伸ばし、その上にクリーム色の花をびっしりと咲かせるので見事です。ミズキの花にも香りがあり、風の無い穏やかな日なら、周辺にすがすがしい良い香りが広がります。観察会でこの花の香りを嗅いでもらおうと、多くの方が、「良い香り！」と言って笑顔を浮かべます。

花の香りは、咲いている間しか楽しむことの出来ない



ミズキ

い期間限定の植物観察です。咲き終わってしまうとどんな香りだったか忘れてしまいやすいので、何度も嗅いだり言葉で記録を残したりすると良いと思います。そうすると、その花の香りがしっかりと記憶に残りますよ。

<触ると香る植物>

花ではなく、葉や茎に触れると香りがする植物もあります。桜が満開になる頃から日当たりの良い場所で盛んに花をつけるカキドオシもその一つです。みどりの里の草むらや野草園などで見ることができます（今年はやや少ないようです）。葉や茎を少し触って香りを嗅いで見ましょう。ハーブにありそうな独特な強い香りがするはず。香りを確かめた後は、ちょうど見頃を迎えている花も観察してみましょ。花びらには紫色の模様があり、その模様は花ごとに少しずつ異なっていること、そして長い白い毛が密集して生えた部分があること、などに気付くと思います。



カキドオシ



キュウリグサ



キュウリグサ

香りがその草の名前の由来となっているものもあります。キュウリグサ、という植物をご存知でしょうか？この草は、キュウリの香りがする、というのでキュウリグサといいます。葉や茎を少し強めにつまんでみると、確かにちょっと青臭い香りがします。確かめてみてください。みどりの里の畑などでよく見かけます。この草は、3月の後半から咲き始めますが、その頃はまだ5cm足らずです。その後ぐんぐんと伸び、実が熟す頃の5月後半には30cmになることもあり、随分と印象が変わります。花はとても小さいので観察が大変ですが、虫眼鏡でのぞいてみると、驚くほどきれいです。整った形の空色の花びら、中心の黄色いリング、などに感激してしまいます。

香りを確かめようと植物に触れることは、手触りや毛の生え具合など、他の事にも気付くきっかけになります。たとえばカキドオシは、芽吹き頃や茎の先端の若い葉はとても毛深いことに気付くことでしょ。

目には見えない「香り」も意識して植物の観察を楽しんでほしいと思います。散策日和の日には、色々な香りを探しに出かけてみましょう。

母の日とカーネーション

みどりの相談員
あきもと みつじ
秋元 満司



5月の第2日曜日、お母さんに感謝の気持ちをあらわす日としてカーネーションの花をプレゼントする事が多いと思います。

それでは、のそ母の日の始まりとされているのが1908年アメリカのフィラデルフィアの教会で、アンナ・ジャービスという女性が、亡き母親を追悼したい。という思いから教会に訪れる人達にカーネーションを配った事が、初めて行われた母の日と言われています。

1914年に当時のアメリカ大統領のウィルソンが、この教会で始まった風習が素晴らしいという事で5月の第2日曜日を母の日と制定したそうです。

日本で初めて母の日を祝う行事が行われたのはやはり教会で、1915年に行われました。日本で一般的に知られるようになったのは、1937年にあるお菓子会社が告知をしたことがきっかけだと言われています。

では、そんなカーネーションについて説明をしてみたいと思います。

カーネーション

(名前の由来)

原種の花の色が肉色から肉を意味するラテン語「カルナティオ」が語源という説と、シェイクスピアの時代に「冠飾り(コロネーション)に使われた。」これが転じたなどがあります。

(別名)

オランダセキチク、ジャコウナデシコ

(植物学的分類)

ナデシコ科ナデシコ属

(原産地)

西アジア、南ヨーロッパ

(花の時期)

原種の花期は7~8月となっていますが、園芸品種は栽培方法では1年を通じて。

(花について)

ナデシコ属は約300種あると言われその中でも最も改良が進んでいる花と言えます。



スプレカーネーション 切花栽培：温室

ヨーロッパでは16世紀頃から品種改良が進められ栽培が盛んになったようです。日本へは江戸時代初期にオランダ人によって初めて入ってきたとされています。当時はアンジャベルと呼ばれていたそうです。

日本で栽培が定着したのは昭和時代に入ってからで、生産量が増えてきたのは1960年代以降で、今では、キク、バラと並ぶ切り花生産量のベスト3になっています。また4月頃から5月の母の日までは花屋さんの店頭で多くのカーネーションの鉢植えも並んでいます。

鉢植えカーネーションの管理

(日常の管理)

日当たりの良い場所へ置いて下さい。蕾の多い鉢ですと、日当たりが悪いと開花しない場合があります。日照不足になると花が咲きにくくなるのと、株全体も元気がなくなってしまうです。

水やりは、土の表面が乾いたら株に水がかからないように株元からたっぷりと水を与えてください。

肥料は、液体肥料でも化成肥料でもどちらでも良く、開花中はりん酸の多い肥料を、その他の期間は3要素同量の肥料を。

暑い時期、寒い時期は肥料は控えめに。植え替えをするのであれば、赤土5・腐葉土3・バーミキュライト2を。その他の栽培方法でわからない事があれば緑の相談室へお願いします。



4月からの新しい先生（解説員・相談員）を紹介します。



山口 史穂 自然解説員

昆虫の行動や彼らを取り巻く環境に興味があります。「これ、おもしろい」と思ったことを皆さんと共有したいです。



橋本 倉司 みどりの相談員

野菜が好きで家でもいろいろな野菜を作っています。皆さまの野菜作りに対する疑問等の解決に少しでも力になればと思っています。よろしくお願いします。

みんな、よろしくね



野島 博 みどりの相談員

普段、口にする食べ物がどのように成育し、利用されているのかと一緒に学びましょう。そして、身近な植物から学ぶたのしさの場造りをサポートします。

海を越えてきた横綱 ～ヨコヅナサシガメ～

自然解説員
むろのりゆき
室 紀行

春になりました。冬にはほとんど見かけなかった虫たちも、元気に活動を始めています。道端には小さな花が開き、もうサクラも咲いている頃でしょうか。サクラはその美しい花姿から日本中至る所に植えられています。さて、このサクラ、大きく成長すると幹に窪みや瘤ができます。この窪みの中で、不思議な形をした虫たちが身を寄せ合っているのを見つけたことはありませんか？じっと寒さを耐え忍んでいた彼らが、そろそろ動き始めます。

何とも形容しがたい姿をしたこの虫は、ヨコヅナサシガメという名前と呼ばれています。かなり大型であること、また成虫の腹部についた白黒の



「幼虫の集団」



「成虫」

突起が力士の化粧回しを連想させることからの命名だと言われています。サシガメというのは“刺すカメムシ”という意味で、見た目からはなかなか想像が付きませんがこれでもカメムシの仲間です。サシガメの仲間は全て肉食であり、鋭い口吻を獲物に突き刺し、毒を注入して動きを止めてからゆっくりと捕食します。サシガメを不用意につかむと口を突き刺して反撃してくることがあるので、手を触れずにそっと観察しましょう。彼らは幼虫で冬を越します。寒い冬の間、木の幹の窪みや洞を覗いてみると、幼虫たちがびっしりと固まっているのを観察できます。この集団はいろいろな木で見られますが、サクラの幹に特に多いようです。園内では、樹名板と木の幹との間にできた隙間を利用していることもあります。

幼虫たちは暖かくなるとゆっくりと動き出しますが、バラバラに行動することはほとんどせず、冬越しをしていた仲間どうしで集まって生活します。アリなどの小昆虫から体の大きなイモムシまで様々な生き物を捕食するのですが、集団で狩りを行うことで自分たちよりも大きな相手をも餌にするという珍しい習性を持っています。



「アリを捕食する幼虫」

四月の末ごろになると、大きく成長した幼虫たちが羽化をする時期に入ります。セミやトンボと同じように背中が割れて成虫が顔を覗かせるのですが、彼らは堂々と昼間に羽化します。背中が割れ始めてから40分程度で殻を脱ぎ終えるので、羽化の一部始終を観察してみるのも楽しいかもしれません。腹部で体を支えながら上半身から脱出し、脚や触角、口吻がゆっくりと引き抜かれていく様子はなかなか面白いと思います。羽化したばかりの新成虫は綺麗な赤い色をしており、時間が経つにつれてツヤのある黒に変わります。成虫は集団生活をせずに飛んで移動し、夏になると木の幹に産卵します。一ヶ月ほどで孵化した幼虫たちは集団で生活しながら成長していきます。



「羽化した新成虫」

今や当たり前のように身近に見られる昆虫となったヨコツナサシガメですが、関東に分布するようになったのは比較的最近のことです。もともとは西日本でしか見られなかったのですが、20年ほど前に突然関東南部で見つかるようになりました。現在は関東北部まで広がっており、いつの日か北日本でも見られるようになってしまうかもしれません。

更にさかのぼると、実は昭和初期に貨物に紛れてやってきた外来種だろうと言われていいます。中国やインドにも同じ種類が生息しており、今や日本でお馴染みとなったヨコツナたちはこの地域が故郷のようです。

移入された外来種が定着すると、その地域にもともと生息していた生物に大きな影響を与えることがあります。集団で狩りをする強力な肉食昆虫であるヨコツナサシガメがそういった能力を持っている可能性も十分に考えられます。同じく海外から移入された昆虫であるアメリカシロヒトリやヒロヘリアオイラガの天敵となっているという報告もあり、すでに日本の自然環境に溶け込んでしまっているとも言えますが、生態系にどのような影響があるのかは詳しく分かっていないようです。

サクラの花のように毎年変わらない風物詩が息づく一方で、温暖化の影響や物流の活発化により、そこに見られる生きものの顔ぶれは刻々と変わっていきます。ヨコツナサシガメはすっかり関東でも顔なじみになりましたが、今まさに分布を広げている虫たちもたくさんいることでしょう。小さな生き物たちに気を配ってみると、彼らの変化を感じとることができるかもしれません。



21世紀の森と広場 4・5月のイベント



※すべての催し物が予約制となっております。電話または直接パークセンター窓口でお申し込みください。

講座名	日時	会場	費用	定員	講師名	講座種別	受付
ショウガを作りました	4月13日(土) 13:30~15:00	多目的室	1,000円	30	みどりの相談員 丸尾三恵子	園芸教室	3/15~
植物ウォッチング (雨天時は屋内)	4月14日(日) 10:00~11:30	園内	無料	25	自然解説員 川端祥子	野草 ウォッチング	3/15~
春を感じる素敵な寄せ植え 作り	4月14日(日) 13:30~15:30	多目的室	2,500円	36	千葉県グリーン アドバイザーの会 吉田俊一	みどりの講習会	3/15~
バードウォッチング (雨天時は屋内)	4月20日(土) 10:00~11:30	園内	無料	25	自然解説員 直井宏	バード ウォッチング	3/15~
鉢花(シンビジウム、クン シラン、シャコバサボテ ン)の手入れ	4月20日(土) 13:30~15:00	多目的室	無料	45	元みどりの相談員 小林喜代次	園芸教室	3/15~
新緑の観察会 (雨天時は屋内)	4月27日(土) 10:00~11:30	園内	無料	25	自然解説員 藤田 泰	樹木 ウォッチング	3/15~
子ども樹木博士になろう!	5月3日(金) 9:30~13:00	園内	200円	30	森林 インストラクター 自然解説員 子ども樹木博士実 行委員会	自然観察会	4/15~
植物ウォッチング (雨天時は屋内)	5月18日(土) 10:00~11:30	園内	無料	25	自然解説員 相澤章仁	野草 ウォッチング	4/15~
昆虫ウォッチング (雨天時は屋内)	5月25日(土) 10:00~11:30	園内	無料	25	自然解説員 室紀行	昆虫 ウォッチング	4/15~



みどりの相談室



パークセンター「みどりの相談室」では、相談員の先生が園芸に関するさまざまな質問に無料でお答えします。電話でもお受けしていますのでお気軽にご相談下さい。

【相談日】 水・土・日曜日と祝日

【時間】 午前10時~12時・午後1時~3時30分

【電話】 047-345-8738
ハナミツバチ



しっち 湿地の観察会

自然観察舎では自然解説員と一緒に「自然生態園」の木道を歩く観察会を実施しています。費用は無料です。

実施日	土曜日・日曜日・祝日
実施時間	10:00~10:30
	11:00~11:30
	13:30~14:00
	14:30~15:00
定員	25名(当日先着順受付)

※参加を希望される方は自然観察舎の受付までお申し込みください。

【電話】 047-340-4140

★ご来園の皆様へお願い★

安全、快適に公園を利用させていただくため、本公園ではいくつかのルールがあります。

自転車 (キックボード含む) の乗り入れ、**ペット** の持ち込み、**テント** 設営、**魚釣り**

(たこ糸を使ったザリガニ釣りはOK、テグスは不可) などは禁止となっています。また

動植物の採集 や鳥などへ **エサをやる** こともかたくお断りしています。きれいな花も

みんなで採ったら無くなってしまいますし、**可愛い** からと、人間の食べ物を鳥などにあげる

と自分でエサを捕れず、自然界で生きていけなくなり、かえって**可愛い** そうなことになってしまいます。ルールを守って楽しく過ごして下さいね。

発行日：2013年4月1日
 発行：21世紀の森と広場パークセンター
 開館：9:00~16:30
 11月1日~2月末までは
 9:00~16:00
 月曜休館(祝日開館/翌日休館)
 〒270-2252 松戸市千駄堀269
 TEL 047-345-8900
<http://www.city.matsudo.chiba.jp/>

- ・ゴミは家までお持ち帰り下さい。
- ・なるべく公共の交通機関をご利用下さい。



21世紀の森と広場シンボルキャラクター
ドンちゃん・グリちゃん